

# 支える 半導体製造

東レエンジニアリング  
Dソリューションズ

半導体製造現場では、ウエハーの洗浄、薬液の洗い流しや希釈などで超純水を大量に使用する。

純水の一部は回収して再び使用。その際、水中の有機物を炭素換算で表したTOC(全有機体炭素量)が一定値以下になっているか

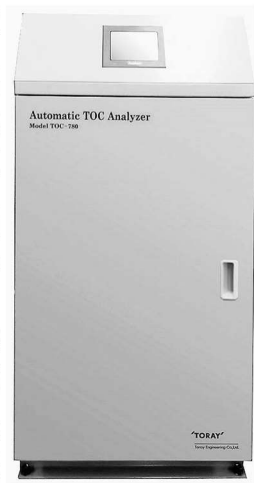
を測定して再利用の判定基準にする。

「蒸し焼き」状態に。超純水が含有する有機物は微小のためUV類似製品では1000度前後に昇温するが、この方式だと650度の低温でも完全燃焼が

線)を照射し、有機体炭素を酸化させて炭酸ガスに変換。そのガスから赤外線分析計で濃度を測定する。半導体工場ですら、少量の有機物混入は避

## 回収純水の有機物測定

### 「低温密封」でメンテナンス性向上



TOC自動分析装置「TOC-7800」

防げるのも密封する利点だ。センシング営業部長の松宮敬氏は、「メンテナンスの頻度を少なくする構造」と説明する。

「TOC計は東レの各工場でも活用されている。新製品を上り市販の通常のフィルターは網目状やスポンジ状だが、TDSではステンレスの円盤を約140μmの厚さで数十層重ねるACF(自動洗浄型フィルター)を採用。ユーザの多様な要求に

## 産機・設備

(つづく)